

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105693
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホームひめ椿
所在地	松山市今在家町4丁目7-28
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面の充実(24時間医療連携、Drの指示によるNsの迅速な処置)
法人内施設との連携による医療面、栄養面での充実
法人内施設との合同行事における多方面の交流

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建ての木造づくりの事業所は、玄関から居間にかけて落ち着いた雰囲気づくりがされている。廊下側にも利用者がくつろげる場所があり、そこからの眺めは四季の移り変わりを感じることができる。管理者と職員は理念に沿って利用者の暮らしを支えている。地域の情報を得て、祭りなどの行事に参加し地域住民と交流しているほか、同じ法人の近隣のグループホームとも交流している。医療面では24時間体制での協力病院との連携や協力医の往診があるなど、利用者や家族は安心感がある。栄養士が栄養バランスに配慮した献立を立て、食事は手づくりで提供しており、利用者の楽しみとなっている。また、職員は法人内の勉強会や外部研修に参加し、ケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームひめ椿

(ユニット名)

さくら

記入者(管理者)

氏 名

松田 岳人

評価完了日

平成 26 年 1 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事務室に理念を掲示しており、出勤時や申し送り時に職員全員が目を通すことにより日々の実践に繋がるよう努めている。	
			(外部評価) 開設時に作成した理念を事業所内に掲示し、職員が毎日確認できるようにしている。管理者と職員は理念に沿って利用者の暮らしを支えているが、職員会議等を利用して理念の話し合いはしていない。	理念は利用者の日々の暮らしを支えるため、事業所が目指すサービスのあり方を示したものであり、理念を具体的に意識しながら実践していくためには、職員と話し合う機会を持つことが大切である。理念について、会議等で話し合いを行い、職員が意識して実践につなげることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のお祭り・行事や運営推進会議を通じて交流させて頂いている。	
			(外部評価) 事業所周辺の散歩時には、地域住民に挨拶をしている。町内会には加入していないが、運営推進会議等の参加者から地域の情報を得て、祭りなどの地域の行事に参加して交流をしている。地域の子供会の夏祭りに参加し、職員が屋台を出店して協力をしている。同法人の老人保健施設と他のグループホームが合同で行事を開催することが多く、夕涼み会を開催しボランティアや地域住民の参加協力をしている。また、事業所単独で行う行事にはボランティアの協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議時に、事業所での対応や実践方法を提供したり利用者の人と接して頂いて、理解を深めて頂ける様努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で現状報告や取り組みを聴いて頂き、そこから出たご意見を真摯に受け止め、向上していけるよう努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、町内会長、民生委員、薬局職員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。同法人の他のグループホームと合同で会議を開催していたが、今年度から別々に開催している。会議では事業所の報告を行い参加者と意見交換を行うほか、高齢者の食事や漢方薬等の講義を一緒に行う工夫をしている。	会議への参加者の固定化が見られるため、新たな情報や多角的な意見がもらえるよう、新たな参加者を増やす働きかけをすることを期待したい。また、会議を活用して地域住民に事業所の様子を知ってもらい、認知症介護などの理解や支援を得るための貴重な機会として役立てることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日常的な連携はとれてはいないが、運営推進会議では現状報告やサービスの取り組みを知って頂く様努め、必要なときには助言頂ける様に関係を構築している。	
			(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知ってもらうほか、意見をもらっている。生活保護を受けている利用者もあり、定期的に市担当者が情報収集のため訪問がある。また、分からないことを相談する等、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会やユニット会にて話し合い、理解し実践に努めている。しかし、玄関の施錠については帰宅願望等で外へ出て行かれる方が居られる為、時間解放とさせて頂いている。	
			(外部評価) 月1回身体拘束などをテーマとして勉強会を開催しており、管理者と職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全面を考え、やむを得ず身体拘束にあたる行為を行う場合は、家族の同意を得ている。玄関は利用者の安全を考え施錠しており、チャイムが鳴ると開けるようにしている。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含めた事業所独自の身体拘束等のマニュアルを作成することを望みたい。また、職員が身体拘束をしないケアへの理解を深めるよう、継続して勉強会を実施することを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会にて理解を深め、基本的な知識を持ち職員同士で注意喚起し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会で題材として扱ったことはあったが、それを活用する機会がなかった。個々の必要性についてはご家族とお話させては頂いているが、制度についてはお話までには至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人の入所時や入所前にご家族に重要事項説明を行い、ご家族の疑問点や不安をお伺いし、ご理解ご納得して頂き、契約をさせて頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関にご意見箱を設置させて頂いている。また面会時にはご要望などをお伺いしている。ご家族の言葉は職員に伝え、ケアの向上に繋げていける様努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者から意見を聞くように努めており、便秘などの対応をしてほしいと言われる場合がある。面会時や運営推進会議の時に家族から意見を聞くように努め、出された意見は職員間で話し合いを行い、家族に伝えている。遠方の家族には電話で利用者の様子を連絡したり、月1回「ひめ椿便り」を送付している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会のみならず、日常的に職員が意見交換できる環境を整備していつている。 (外部評価) 管理者はユニット会やカンファレンス等で職員から意見や要望を聞いている。直接管理者に意見を伝える職員もいるが、伝えにくい場合には上司に意見を伝えることができるような機会をつくっている。出された意見は話し合い対応するよう努めている。月1回法人での勉強会を開催するほか、職員が外部研修にも参加しやすいよう参加費を助成している。法人では職員の資格取得への支援もしており、半数の職員は介護福祉士の資格を取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人ひとりのことを把握し、全員が向上心を持って働くことが出来る様職場環境条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 一月に一回、法人内研修（勉強会）に参加している。外部研修も掲示板に掲示して参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区の地域密着型施設の連絡会に参加しており、合同での研修や事例研究を行い、交流を深めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に予め面談をし、本人の気持ちやご要望を伺い、入所当日も安心して頂ける様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に面談させて頂き、ご家族とお話出来る時はご要望やサービス開始時の不安もお聞きしている。また契約時にも詳細をお話させて頂き、信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族のご要望をお聞きし、こちらで出来るサービスをお話させて頂いている。他のサービスを含めたお話はしていないが、往診や医療連携についてのお話はするようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者として見るのではなく、人生の先輩として敬い、共に生活をしていく者同士として関係を築いていける様努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族には面会時にその日あったことを伝えている。また、日ごろのケアでも声掛けに息子様や娘様、住んでいた場所をお聞きしたりお話して頂いたりして、繋がり・絆を忘れない様に支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会や外出によって関係を支援している。本人希望で手紙を書いて頂いたり、電話をかける等の支援をしている。 (外部評価) 日々の会話の中で利用者から聞いた馴染みの場所へ出かけられるよう支援している。懐かしい話を聞くだけで、楽しそうにしている利用者もいる。同じ法人の老人保健施設と他のグループホームと合同で行事を開催し交流をしており、利用者同士の新しい馴染みの関係ができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を職員が把握に努め、傍で孤立気味に過ごしておられる利用者がある場合は職員が間に入ることで、皆で会話し孤立して寂しい思いをすることがない様支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後、関連施設に行かれた方については行事等でお会いした時に声をかけたりしている。状況に応じて、本人・ご家族の相談や支援も行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者のことを把握し、ユニット会などで職員で意見交換を行いご家族も交え、本人の希望や以降に応じて本人本位に支援できる様に努めている。 (外部評価) 利用開始前に、利用者や家族から思いや意向を聞いて把握している。また、日常生活の中では利用者の思いを聞くよう努めている。思いの把握が困難な利用者には表情や行動等で把握に努めており、利用者に寄り添いながら支援している。新たに得た情報は記録に残し、申し送り等で報告して職員間で共有している。把握した思いは職員間で話し合うなど、できる限り支援できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前のアセスメントやケアマネの引き継ぎ、また本人、ご家族から把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの状態の把握に努め、記録に残し現状の把握に努めている。無理強いすることなく、出来る範囲でして頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日常的な本人の状態、より良く過ごすための課題を月一のユニット会で職員全員で話し合って、計画を立て、また面会時等にご家族にお話を伺い現状に即した計画を作成する様努めている。 (外部評価) 利用者や家族の希望を聞き、職員間で話し合い介護計画を作成している。計画に沿った支援ができているか経過記録で確認し、利用者毎の担当者が毎月モニタリングを行い、6か月に1回見直しをしている。また、利用者の状態の変化に応じてその都度話し合いを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人の記録に日々の様子など詳細に残し、話し合いの場を設けている。そして見直し・実践、計画などの見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況・状態やニーズに目を向け、柔軟な支援やサービスが行われるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源の活用は中々出来ていないが、職員・ボランティア等で楽しんで頂ける様心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族の意向を伺い、かかりつけ医を変更したり決めて頂 いている。かかりつけ医は月2回の往診あり、専門外の他科 受診以外は受診対応も職員が行っている。DrとNsとの連携 をとっている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を家族の協力を得 て受診することができる。協力医をかかりつけ医としてい る利用者には、月2回往診があり健康管理をしている。訪 問歯科診療の対応もしている。協力医と連携が取れてお り、利用者や家族は医療面で安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホーム内にNsがいない為、日常的な本人の状態を知って もらうのは難しいが、特変時は必ず連絡し、Drより指示を受 けNsより適切な処置をしてもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には介護サマリーをお渡しし、病院と連携し、ご家 族と一緒に関係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時や体調変化時にご家族にホームで出来ること等の説 明をしているが、終末期のあり方については説明できない のが現状である。 (外部評価) 利用開始前に事業所として対応できる内容を利用者や家族 に説明している。看取り支援は実施しない方針のため、急 変時や看取りが必要な状態となった場合は、同じ法人の看 取りを行っている法人保健施設などに移ることが可能と なっている。	事業所として看取り支援を実施しない場合でも、終末 期に向けた方針は、利用者や家族にとって大切なこと であり、事業所としての方針を文書化し説明すること を期待したい。また、利用者が重度化することあり、 職員の不安解消のため勉強会を継続して実施する ことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練は行えていないが、ユニット会で急変や事故発生時の対応などを話し合い、対処確認している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練や地域の人々が集まる運営推進会議で話し合っているが、地震時の訓練はこれから学んでいきたい。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、消防士から指導してもらっている。事業所のある地域は防災のモデル地区となっており、地域の防災訓練に参加している。利用者は地域の災害弱者登録を行っており、地域住民は利用者のことを把握して災害時には協力が取れる体制となっている。今後は、地震等の様々な災害を想定した訓練を検討している。また、備蓄品を用意し災害への備えをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを職員に確認しており、声掛けや対応が出来る様努めている。 (外部評価) 利用者の誇りを傷つけないよう言葉づかいや声かけに配慮して支援している。トイレ誘導時の職員と利用者の会話はとても自然であり、お互いの信頼関係が伺える。同性介助を希望する利用者には希望に沿って対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 基本的に本人に自己決定して頂いている。利用者の希望など聞いたりし対応出来る様努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースや希望に沿った生活を支援している。しかし、その時の利用者の希望に添えない時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分で身だしなみやおしゃれが出来る方は自由にその人らしくして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立は栄養士が管理しているため、一人ひとりの好みに合わせることはできないが、お菓子作りやもやしの根切りなど、一緒に準備している。 (外部評価) 管理栄養士が献立を立て、各ユニットの職員が調理をしている。利用者は職員と一緒に台拭きなどできることを手伝っている。手作りされた食事を利用者は楽しみにしており、完食される利用者も多い。ランチョンマットは職員から一人ひとりの違う柄のものをクリスマスにプレゼントされ、食事時間の雰囲気づくりに役立っている。職員は利用者と同じ食卓を囲み、持参した弁当を利用者と一緒に食べている。また、利用者は使い慣れた茶碗や湯飲み、はしを使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が量やバランスを考えたメニューを立てている。摂取量や水分量は確認している。体調不良や食べにくいものがある時はその人のあった食事や食事形態を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各自の口腔状態に応じたケアを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレでの排泄が出来る様支援している。おむつの使用を減らす様努力している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、昼間はトイレ誘導をして排泄ができるよう支援している。夜間にはポータブルトイレを使用している利用者もあり、利用者の状況に合わせて睡眠を優先したり、トイレ誘導をしたりするなど、個別での対応をしている。排便状況も把握して、便秘など必要時には看護師等に相談して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量や食事摂取に気を下っているが緩下剤も使用し、スムーズな排便を支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日・時間は職員の都合となってしまうているが、その日の体調や気分を見ながら入浴の変更も行っている。	
			(外部評価) 利用者は週3回を基本として入浴することができる。入浴できる曜日を決めてはいるが、利用者の状況に合わせて変更をしている。事業所の1階には特殊浴槽があり、利用者の状態に合わせて使用しており、安心安全に入浴することができる。入浴が苦手な利用者には、無理強いしないよう声かけや職員を交代したり、時間をずらすなど工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣や体調に合わせて臥床して頂いている。週民事の声掛けや排泄の気配り、見守り、巡視を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルにまとめ、職員全員で把握し、誤薬がない様一人ひとりの薬を理解し服薬支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 介護が優先になってしまう為、日常的に継続は難しいが音楽を聴いたり、外に散歩に行ったりと支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に沿う外出支援は出来ていない。ホームや関連施設での行事でなるべく外に出ていける様努めている。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩できるよう支援し、地域や法人合同の行事にも出かけている。季節に応じてドライブや外食など外出できる機会を計画して支援している。利用者の希望を聞いて買い物などの支援はしているが、全員の外出希望には対応できていない。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理が可能な方には所持使用されている方もいる。困難な方が多いため、ホームにてお預かりさせて頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご希望時に支援している。携帯電話を持たれている方もおり、自ら電話される時の支援もしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 心地よく過ごして頂けるように季節ごとの壁面や利用者の作品を展示したり、温度に配慮している。	
			(外部評価) 玄関から居間にかけて明るく広々とした空間づくりをしている。廊下側に落ち着いてくつろげる場所も確保されており、そこからの眺めは四季の移り変わりを感じることができる。居間や廊下の壁には利用者と職員が一緒に作成した季節の作品が飾られており、利用者は時間に追われることなくゆっくりと思い思いの場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人になりたい時は居室に戻られたり、利用者同士で過ごせる様、ソファを置いたり工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具やTV、写真、仏具など置いて頂き、本人が居心地よく過ごせて頂ける様支援している。	
			(外部評価) 広々とした居室にはベッドと整理ダンス、洗面台が備え付けられている。日当たりがよくて明るい居室の窓から見える田園風景は、利用者に懐かしさを感じさせてくれる。居室には使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、利用者に合わせてレイアウトや飾りつけをしており、家庭で過ごしているような居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) あらゆる箇所に手すりをつけ、歩行時や立位時に利用して頂いている。残存機能が活かせる様に声掛けしながら支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105693
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホームひめ椿
所在地	愛媛県松山市今在家町4丁目7-28
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・月に二回Drの往診があり、医療面も充実している。 ・近隣に同系列の施設あり、季節ごとの様々な行事を合同で行い交流を深めている。 ・周りを田畑が囲み、窓から石鎚の山々が四季ごとに姿を変え、季節感のある様を楽しむことができる。 ・スタッフが笑顔で対応し、安心して生活を営んで頂けられるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建ての木造づくりの事業所は、玄関から居間にかけて落ち着いた雰囲気づくりがされている。廊下側にも利用者がくつろげる場所があり、そこからの眺めは四季の移り変わりを感じることができる。管理者と職員は理念に沿って利用者の暮らしを支えている。地域の情報を得て、祭りなどの行事に参加し地域住民と交流しているほか、同じ法人の近隣のグループホームとも交流している。医療面では24時間体制での協力病院との連携や協力医の往診があるなど、利用者や家族は安心感がある。栄養士が栄養バランスに配慮した献立を立て、食事は手づくりで提供しており、利用者の楽しみとなっている。また、職員は法人内の勉強会や外部研修に参加し、ケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームひめ椿

(ユニット名)

もみじ

記入者(管理者)

氏 名

松田 岳人

評価完了日

平成 26 年 1 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に地域との交流を図り、人と人とのふれあいを大切にするという目標を掲げており、理念を共有できるよう事務所内に掲示している。 (外部評価) 開設時に作成した理念を事業所内に掲示し、職員が毎日確認できるようにしている。管理者と職員は理念に沿って利用者の暮らしを支えているが、職員会議等を利用して理念の話し合いはしていない。	理念は利用者の日々の暮らしを支えるため、事業所が目指すサービスのあり方を示したものであり、理念を具体的に意識しながら実践していくためには、職員と話し合う機会を持つことが大切である。理念について、会議等で話し合いを行い、職員が意識して実践につなげることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域主催の夏祭りや秋祭りに参加させて頂いており、運営推進会議へも地域の方に参加して頂き交流を深めている。 (外部評価) 事業所周辺の散歩時には、地域住民に挨拶をしている。町内会には加入していないが、運営推進会議等の参加者から地域の情報を得て、祭りなどの地域の行事に参加して交流をしている。地域の子供会の夏祭りに参加し、職員が屋台を出店して協力をしている。同法人の老人保健施設と他のグループホームが合同で行事を開催することが多く、夕涼み会を開催しボランティアや地域住民の参加協力をしている。また、事業所単独で行う行事にはボランティアの協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事や運営推進会議にて認知症の方の暮らしぶりを見て頂くなど、理解や接し方を知って頂ける様努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の方の様子、事業所の取り組み内容の報告を行い、地域の方などからご意見を頂きサービス向上に活かせる様努めている。又、地域の方からも地区の行事の情報をお聞きしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、町内会長、民生委員、薬局職員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。同法人の他のグループホームと合同で会議を開催していたが、今年度から別々に開催している。会議では事業所の報告を行い参加者と意見交換を行うほか、高齢者の食事や漢方薬等の講義を一緒に行う工夫をしている。	会議への参加者の固定化が見られるため、新たな情報や多角的な意見がもらえるよう、新たな参加者を増やす働きかけをすることを期待したい。また、会議を活用して地域住民に事業所の様子を知ってもらい、認知症介護などの理解や支援を得るための貴重な機会として役立てることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議へ出席して頂いたり、何か不明な点などがあれば連絡し、協力関係を築ける様努めている。	
			(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知ってもらうほか、意見をもらっている。生活保護を受けている利用者もあり、定期的に市担当者が情報収集のため訪問がある。また、分からないことを相談する等、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の世情については拘束になると理解してはいるが、来客に気を付けないこと多く、安全面も考慮し施錠を行っている。他の身体拘束については拘束しない介護をめざし、実践している。	
			(外部評価) 月1回身体拘束などをテーマとして勉強会を開催しており、管理者と職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全面を考え、やむを得ず身体拘束にあたる行為を行う場合は、家族の同意を得ている。玄関は利用者の安全を考え施錠しており、チャイムが鳴ると開けるようにしている。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含めた事業所独自の身体拘束等のマニュアルを作成することを望みたい。また、職員が身体拘束をしないケアへの理解を深めるよう、継続して勉強会を実施することを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会等で学び、虐待が見過ごされることのない様全職員が注意し対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会で学んではいるが、実際に関係者との話し合いの機会にはまだ至ったことがない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者・ご家族の気持ちを伺いながら、充分説明を行い納得して頂き不安が軽減して頂ける様努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の方の希望は日々の会話の中でお聞きし、家族の希望、不明点やご不満は面会時にお話し、何うよう努めている。また玄関にご意見箱を設置している、その他にも運営推進会議の中でも出席のご家族の方に意見として伺い、運営に反映させている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者から意見を聞くように努めており、便秘などの対応をしてほしいと言われる場合がある。面会時や運営推進会議の時に家族から意見を聞くように努め、出された意見は職員間で話し合いを行い、家族に伝えている。遠方の家族には電話で利用者の様子を連絡したり、月1回「ひめ椿便り」を送付している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行っている職員会にてマニュアルの見直しや改善点についての話し合いを行っている。また、日ごろより良い対応を話し合い、職員の意見や思いを把握するよう努めている。 (外部評価) 管理者はユニット会やカンファレンス等で職員から意見や要望を聞いている。直接管理者に意見を伝える職員もいるが、伝えにくい場合には上司に意見を伝えることができるような機会をつくっている。出された意見は話し合い対応するよう努めている。月1回法人での勉強会を開催するほか、職員が外部研修にも参加しやすいよう参加費を助成している。法人では職員の資格取得への支援もしており、半数の職員は介護福祉士の資格を取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人ひとりのことを把握し、全員が向上心を持って働くことが出来る様、職場環境条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 一か月に一回法人内研修（勉強会）に参加している。外部研修も掲示板に掲示し、参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区の地域密着型施設の連絡会に参加しており、合同での研修や事例研究を行い、交流を深めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 傾聴の姿勢で不安なことや要望を伺い、少しでも安心して暮らして頂ける様、本人との信頼関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が感じている不安点、要望にその都度耳を傾け、家族 の立場に立ちながら関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 何を一番必要としているのか考え、ご意見を伺いながらそ のためどのような支援・サービスが必要なのかを考え、 対応させて頂いている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者を人生の先輩として敬い、喜怒哀楽を伴にすること で個々の個性や暮らしの意向を知ることが出来、時間をか けて関わりを持ちながらより良い関係を築こうと努めてい る。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に居室にて家族で過ごして頂けるようにしており、 その際に日常の様子も報告させて頂き、家族との絆を大切 にしながら本人と家族との良いパイプ役となれるよう努め ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 全ての利用者の方の馴染みの方は把握できていないが、把 握できている方の電話の支援は行えている。又、友人の方 が協力して下さりなじみの場所へ外出している方もいらっ しゃる。 (外部評価) 日々の会話の中で利用者から聞いた馴染みの場所へ出かけ られるよう支援している。懐かしい話を聞くだけで、楽し そうにしている利用者もいる。同じ法人の老人保健施設と 他のグループホームと合同で行事を開催し交流をしてお り、利用者同士の新しい馴染みの関係ができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、利用者の方が孤立しないよう席順を決めたり、利用者同士が関わり合い、ともしれば助け合えるようなレクリエーションを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 現状では家族等から相談があれば対応を検討し支援しているが、こちらから退所された方への声掛けは行っていない。中々難しいことだと感じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中で希望の把握に努め、職員同士でも情報交換を行っている。希望を直接伺うのが困難な方は、家族の方と相談しながら本人本位を優先し検討している。 (外部評価) 利用開始前に、利用者や家族から思いや意向を聞いて把握している。また、日常生活の中では利用者の思いを聞くよう努めている。思いの把握が困難な利用者には表情や行動等で把握に努めており、利用者に寄り添いながら支援している。新たに得た情報は記録に残し、申し送り等で報告して職員間で共有している。把握した思いは職員間で話し合うなど、できる限り支援できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェースシートを確認したり、失礼のない程度に本人もしくは家族の方よりお聞かせいただき、個々の歴史やサービス利用に至った経緯を把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの様子観察をしっかりと行い、記録に記入し個々の有する力について職員間で話し合い、発見、そして失われないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的に会を設け設定期間毎の見直しだけではなく、本人・家族の要望や心身状態の変化に応じてその都度、意見を出し合い介護計画書の作成に生かしている。 (外部評価) 利用者や家族の希望を聞き、職員間で話し合い介護計画を作成している。計画に沿った支援ができているか経過記録で確認し、利用者毎の担当者が毎月モニタリングを行い、6か月に1回見直しをしている。また、利用者の状態の変化に応じてその都度話し合いを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の方の様子、言われた言葉を細かく記録し職員間でも情報を共有し、見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族や管理者、相談員に相談しながら柔軟な対応が出来る様努めてはいるが、出来ていないこともまだまだあると感じている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方に来て頂いたり、消防訓練の際には消防署に来ていただく等、完全で楽しく生活出来る様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回のDr往診もあるが、本人・家族の希望があれば、希望 する病院・医師を主治医とし、納得のいく治療が受けられ るよう支援している。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を家族の協力を得 て受診することができる。協力医をかかりつけ医としてい る利用者には、月2回往診があり健康管理をしている。訪 問歯科診療の対応もしている。協力医と連携が取れてお り、利用者や家族は医療面で安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃より介護職員と看護師がスムーズな連携をとれる様関 係づくりに努め、何か気づいた点があれば看護師にその都 度報告し、アドバイスや適切な処置、受診が受けられるよ うに連携を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 家族とも相談しながら互いに情報交換を行い、安心して治 療し早期に退院できる様努めているが、そうした場合に備 えての関係作りは行えていない。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所後に家族の方にグループホームで出来ることを説明 し、生活していく中で何かあれば、その段階ごとで意向を 伺い、事業所としてどこまでの支援が出来るのか説明をし ている。 (外部評価) 利用開始前に事業所として対応できる内容を利用者や家族 に説明している。看取り支援は実施しない方針のため、急 変時や看取りが必要な状態となった場合は、同じ法人の看 取りを行っている法人保健施設などに移ることが可能と なっている。	事業所として看取り支援を実施しない場合でも、終末 期に向けた方針は、利用者や家族にとって大切なこと であり、事業所としての方針を文書化し説明すること を期待したい。また、利用者が重度化することあり、 職員の不安解消のため勉強会を継続して実施する ことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 慌てず、適切な行動がとれる様、勉強会を設け実践力を身につける努力をしておりユニット会にて急変時対応した時の実例を全職員に伝え、良かった点・改善点を話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年2回実施し、消防士の方からもアドバイスを頂いて確実な避難誘導が出来るように努めており、地域の方へも運営推進会議にて協力をお願いを行っている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、消防士から指導してもらっている。事業所のある地域は防災のモデル地区となっており、地域の防災訓練に参加している。利用者は地域の災害弱者登録を行っており、地域住民は利用者のことを把握して災害時には協力が取れる体制となっている。今後は、地震等の様々な災害を想定した訓練を検討している。また、備蓄品を用意し災害への備えをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを尊重し、その方に合った声掛け、対応を行いプライバシーを損ねない様に努めている。 (外部評価) 利用者の誇りを傷つけないよう言葉づかいや声かけに配慮して支援している。トイレ誘導時の職員と利用者の会話はとても自然であり、お互いの信頼関係が伺える。同性介助を希望する利用者には希望に沿って対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方が思い・希望を表しやすいように笑顔で対応し雰囲気作りに努めている。意思表示が上手く出来ない方にも表情や全身の反応を読み取るよう努め、出来る限り自己決定して頂けるように働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に添える様努めているが、すべての希望に応えられていない現状がある。	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、出来る限り希望に添える様努めているが、すべての希望に応えられていない現状がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分で服を選べる方は選んで頂いたり希望に応じた散髪も行っている。外出時には化粧をして頂くなどよりおしゃれをして頂くお手伝いを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の方に食材の下準備を手伝って頂いているが、食事作りには行事としてしか行えていないのが現状である。 (外部評価) 管理栄養士が献立を立て、各ユニットの職員が調理をしている。利用者は職員と一緒に台拭きなどできることを手伝っている。手作りされた食事を利用者は楽しみにしており、完食される利用者も多い。ランチョンマットは職員から一人ひとりの違う柄のものをクリスマスにプレゼントされ、食事時間の雰囲気づくりに役立っている。職員は利用者と同じ食卓を囲み、持参した弁当を利用者と一緒に食べている。また、利用者は使い慣れた茶碗や湯飲み、はしを使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分摂取量は記録し把握している。飲み物については、体調・既往歴等ここに合わせて好みのものを分量を調整しながらお出しし、介助の方法、声掛けの方法も個々によって工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアを行っており、本人が出来ない所のみ介助している。その他には声掛け・見守りを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの状態、排泄パターンを把握し、出来る限りトイレにて排泄できる様、ここに応じた支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、昼間はトイレ誘導をして排泄ができるよう支援している。夜間にはポータブルトイレを使用している利用者もあり、利用者の状況に合わせて睡眠を優先したり、トイレ誘導をしたりするなど、個別での対応をしている。排便状況も把握して、便秘など必要時には看護師等に相談して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂取して頂いたり、運動の声掛けを行い予防に取り組んでいる。便秘になった場合、腹部マッサージを行ったり、医師に指示を仰ぐ等対応している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の声掛けに拒否された場合は時間を空け、再度声掛けをする等しているが、曜日・時間は利用者の方全員が同様にできるようにするタメにも、基本は決めさせて頂いている。	
			(外部評価) 利用者は週3回を基本として入浴することができる。入浴できる曜日を決めてはいるが、利用者の状況に合わせて変更をしている。事業所の1階には特殊浴槽があり、利用者の状態に合わせて使用しており、安心安全に入浴することができる。入浴が苦手な利用者には、無理強いしないよう声かけや職員を交代したり、時間をずらすなど工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の方に心地よく過ごして頂ける様に温度調整を行いながら、希望に応じて休息をとって頂いている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤師の方に伺いながら、処方箋の内容を確認して理解に努めているが、副作用について全ての把握は出来ていない。症状に変化がないか、注意し観察をしており、服薬時には職員2名で確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 張り合いのある生活を送って頂けるよう一人ひとりの楽しみ、気分転換とは何かを考えながらここに応じた支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的な外出行事・散歩等の支援は出来ているが、一人ひとりのその日の希望に沿った外出支援は出来ていない。 (外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩できるよう支援し、地域や法人合同の行事にも出かけている。季節に応じてドライブや外食など外出できる機会を計画して支援している。利用者の希望を聞いて買い物などの支援はしているが、全員の外出希望には対応できていない。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を自分で持つことの大切さを理解しており、希望に応じて一部のみであるが所持されており、買い物を楽しんで頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて電話をかけれるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清潔を保ち換気を行いながら、その日の天気・気温に応じて温度調整を行い、心地よく過ごせるよう努めている。 又、生活の中でも季節が感じられるよう、壁面に飾りつけを行っている。	
			(外部評価) 玄関から居間にかけて明るく広々とした空間づくりをしている。廊下側に落ち着いてくつろげる場所も確保されており、そこからの眺めは四季の移り変わりを感じることができる。居間や廊下の壁には利用者と職員が一緒に作成した季節の作品が飾られており、利用者は時間に追われることなくゆっくりと思い思いの場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにて気の合った利用者同士で話ができる様ソファを設けたり、リビング以外にもソファ・椅子を設置し、利用者の方が自由に過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人・家族と相談しながら筆筒などの配置を決め、使い慣れた家具や小物、写真を飾り、本人に居心地良く過ごして頂ける様努めている。	
			(外部評価) 広々とした居室にはベッドと整理ダンス、洗面台が備え付けられている。日当たりがよくて明るい居室の窓から見える田園風景は、利用者に懐かしさを感じさせてくれる。居室には使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、利用者に合わせてレイアウトや飾りつけをしており、家庭で過ごしているような居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレにはトイレマークを扉に貼り、各居室にはネームプレートを設置し、出来る限り自立した生活が営める様工夫している。	